

米国 ブルーベリー生産者はカナダとの関税問題に直面

[FreshPlaza](#) 2025年5月9日

ワシントン州フランクリン郡の大規模ブルーベリー農園では、茂みが地平線まで広がっている。この広大な農場を所有している一家のレイ・ビルン氏は、「この品種はドレイパーだ」と述べた。

同州は、米国のブルーベリー生産を主導している。しかし、その果実の多くは、米国の消費者に届く前に、梱包、加工、貯蔵のためにカナダに渡る。トランプ政権の関税は、米国とカナダの国境を跨ぐブルーベリー産業に1つの課題を投げかけている。

ビルン氏の農場では、収穫のために約800人の労働者を雇用する。ビルン氏は「我々の決定は他の人々に影響を与える」と述べ、関税の不確実性がある中での戦略的な意思決定の重要性を強調した。ビルン氏一家は、このほかにも米国とカナダの両方で大規模な農場を運営しており、ブルーベリー産業の国境を越えた相互依存性を際立たせている。

ビルン一家がワシントン州で生産するブルーベリーのほとんどはブリティッシュコロンビア州(カナダ)で調製・加工され、国産品のラベルを付けて米国に戻される。この過程で、果実はカナダへの出入国の2回、関税がかかる可能性があり、ビルン一家の将来の計画を難しくしている。ビルン氏は、「現在、国境の両側で一時的に停止している事業がある」と指摘した。

年間約4千万ポンド(約1万8千トン)のワシントン州産ブルーベリーが調製・加工のためにカナダに出荷されている。成熟がピークとなる夏の時期には、生鮮及び冷凍のベリーをタイムリーに販売することが重要である。関税により、加工処理や低温倉庫へのアクセスが妨げられる可能性があり、それは供給過剰につながる。

ワシントン州北部でベリーを栽培するポール・サンガ氏は、物流上の課題を予想し、8月には過剰なベリーがある一方で流通の選択肢が限られることを念頭に、「そんなに短い期間にどう取り扱えばよいのか」と問いかけた。

北米ブルーベリー評議会のディレクターであるアリッサ・ハウトビー氏は、ベトナム、日本、マレーシア、台湾等、大量の米国産ブルーベリーを輸入している国々での関税問題の解決を求めており、「我々は、ベトナム、日本、マレーシア、台湾の関税の問題が対処されることを望んでいる」と述べた。トランプ政権が好結果を出せば、米国内のブルーベリー業界の一部に利益をもたらす可能性がある。

出典: [Marketplace](#)